慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小売店における規模の効果に関する考察 - 衣料，身の回り品専門店について -
Sub Title	
Author	梶田研(Kajita, Ken) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第537号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0537

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0537

学生氏名　梶田　研　　主査　関谷　章
副査　和田充夫
所属ゼミナール　青井倫一研　　青井倫一

小売店における規模の効果に関する考察
― 衣料・身の回り品専門店について ―

本論文は、ファショナブルなハンドバックを店舗の全国展開により、販売している小売業であるＩ社の成長戦略のうち、地域小売市場を決定する店舗それ自体に焦点を当てる。そして、その店舗の一つの規模の尺度である売場面積により、効率がどの様に変わるかを実証的に研究すると同時に、地域小売市場の性格を、より正確に把握することを試みる。

分析の枠組としては、経済学における企業行動に関する分析方法を用いた。それは、企業の目的を利潤最大化とした時に、経済学で取り上げられる規模の経済というものと、小売業の売場面積は何のような関係があるか、そして、そのとき売場面積の変化による効率の違いがあるかを考え、それを実証的に証明する事を試みた。

しかし、実証研究の結果、売場面積により効率は変化するという事は証明し得なかったばかりでなく、売場面積により効率が変化しないという事が反対に言えた。これより、Ｉ社の戦略を考える時には、売場面積の変化による効率の上昇を期待することは避けるべきであり、また小売市場とは企業が乱立する状態を生む性格を多く持っているということを、前提に考えるべきであるという示唆を示す事ができた。